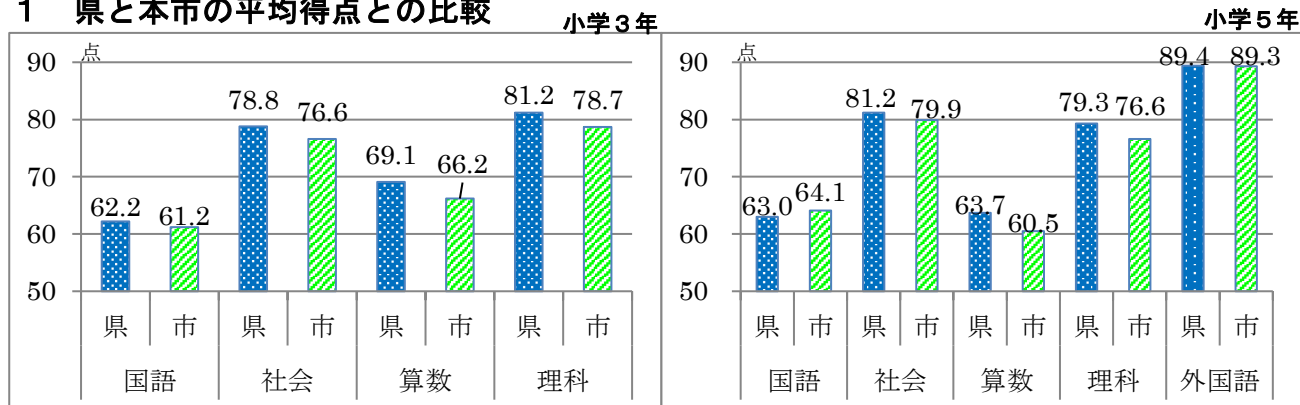


令和5年度千葉市学力状況調査結果概要（小学校版）

1 県と本市の平均得点との比較



2 各教科の改善策

【国語】 学習内容と実生活を結びつけて考えられるような学習活動の工夫

小学3年

○第3、4学年の「書くこと」におけるエ推敲の目標は「間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること」である。かぎの使い方や接続する語句の役割を理解するとともに、児童自身が間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることによって整った文章になることが実感できるよう工夫を凝らす必要がある。

小学5年

○第5、6学年の「話すこと・聞くこと」におけるア話題の設定、情報の収集、内容の検討の目標は「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること」である。児童が、目的や意図を意識しながら話し合いを行うことができるように、話し合いの内容を可視化できる思考ツールの活用、話し合いを振り返るためのルーブリック評価の活用などの手立てを考えていく必要がある。また、国語科だけでなく特別活動などにおいても、参加者全員で真に目標へ迫っていく話し合いを数多く経験できるようにする必要がある。

【社会】 資料や話し合い活動から考えたことを基に、自分の意見をまとめる機会の充実

小学3年

○第3学年が始まり、すぐに方位記号の学習となる。その後に様々な学習を進めていくうちに忘れてしまっていることが想定されるので、農産物や工業の学習のときに、「地図帳でも確かめてみよう」と声をかけ、地図に慣れさせる必要がある。定期的に地図にふれる機会をつくるだけでなく、地図を読み取る際には、まず方位記号を確認したり、「上下左右」でもものの位置を表さずに「東西南北」を使用したりするように指導していくことが大切である。

小学5年

○第4学年まで、身の回りに関する内容や、日本の都道府県について学習してきた児童にとって、世界の大陸や海洋、日本の国土と範囲が広がることに理解が追いつかないことが考えられる。年度当初の指導時期であり、他の学習内容でふれる機会も少ないため、食料生産や工業生産で外国との輸出入のタイミングで復習することが大切だと考える。

【算数】 問題解決の過程や考えの根拠を明確にした数学的活動の一層の充実

小学3年

○それぞれのグラフから気付いたことや読み取ったことを話し合う活動を通して、目盛りや表し方の違いなどそれぞれのグラフの特徴について捉えることができるようにしたい。そのためには、算数科だけでなく社会科のグラフ資料を読み取ったり、総合的な学習の時間において、課題解決に向けて実際に集計してグラフを作成し、分析したりする活動を設定できるよう、カリキュラムを工夫することも大切である。

小学5年

○グラフを正しく読み取り、そこからわかることを整理したり話し合ったりする活動を重視したい。その際には、割合の数値だけに捉われず、実際の人数（もとにする量）を正しく捉えることを押さえるようにする。グラフから読み取ったことについて考察したり話し合ったりする活動を通して、全体、部分、割合のそれぞれの関係を正しく捉えるとともに、グラフの見た目だけでは判断できないことを押さえる必要がある。

【理科】 実感を伴った理解に繋げるための工夫

小学3年

○固定した物の影の位置を、時間をおいて繰り返し地面に描く活動を通して、影の位置と太陽の位置の変化を関係付けて捉えられるように指導することが必要である。また、太陽の位置の変化について方位を用いて適切に表現するためには、日常生活や社会科との関連を図りながら、実感を伴った理解が得られるように指導していく必要がある。

小学5年

○物が溶ける状態について、食塩を入れた水、コーヒーシュガーを入れた水、味噌を入れた水の様子を比較して、物が水に「溶けた状態」「色を付けて溶けた状態」「溶けない状態」の違いを観察する場を設定することが大切である。観察結果と水溶液という用語を関連付けて実感を伴った理解が得られるように指導する必要がある。また、「水溶液は、物が水の中で均一で全体的に溶けているのか」といった児童の疑問を取り上げ、水溶液の上辺や底などをスポイトで採取して蒸発乾固することで、水溶液の性質を追究する場面を設定することも効果的である。

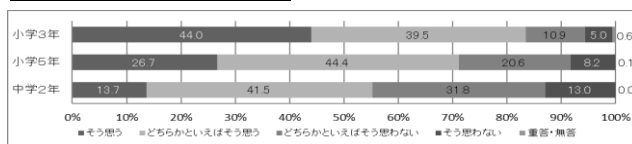
【英語】 目的、場面、状況を明確にした言語活動のさらなる充実

小学5年

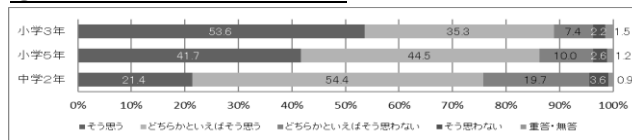
○聞き取ることや実際に使ってみることを通して、様々な表現に慣れ親しむ機会を設けていくことが大切であると思われる。Small Talk 等の言語活動の中で、キーセンテンスのみではなく、それに付随した会話を続けられる簡単な表現を取り入れるように意識し、児童が様々な表現に慣れ親しめるようにする。また、考えて表現することを意識した言語活動を積極的に取り入れていく。

3 学習に対する意識

①学校の勉強が好きだ



②学校の勉強がよくわかる



教員による「わかる授業」の実施を

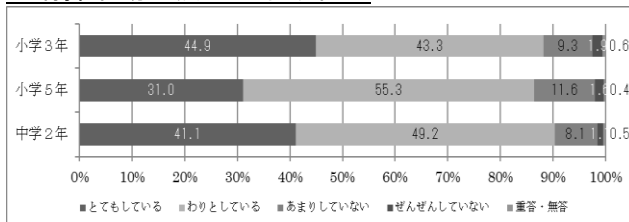
自立した学習者として主体性を育てていくために、事実に関する知識を個別に獲得させることに終始するのではなく、教科等横断的な学びを通して児童生徒が複数の知識を関連付け、構造的な知識の獲得とさらに学びを深めていこうとする姿を目指していきたい。

そのためには児童生徒が「理解する・わかる」ために教師が主導となる授業も生かしつつ、児童生徒が「知りたい・わかりたい」と関心意欲や課題意識を高くもって、学習に臨めるような教師の授業への意識転換が求められる。

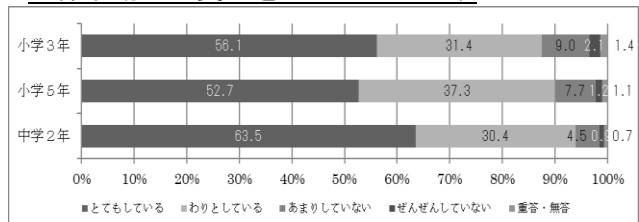
「わかる」には「分かる」「解る」「判る」という三つの意味がある。

4 学校での生活に関する意識

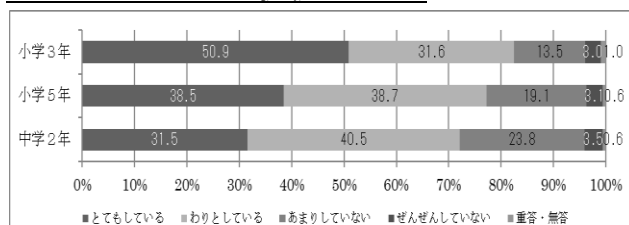
○清掃活動に熱心に取り組む



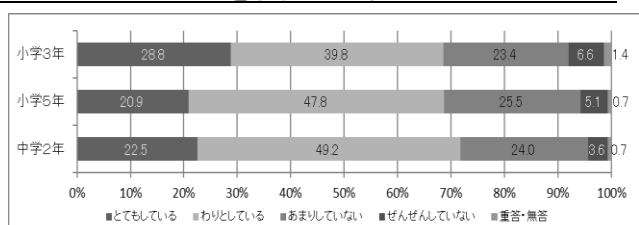
○係活動など責任をもってこなう



○いろいろなことに挑戦している



○がんばったことを、先生や友達からほめられる



「自主性」は発揮されているが、「主体性」の発揮に課題が見られる

「清掃活動」や「時間を守ること」のように、「決められた範囲の中で決まった行動を行うこと」については値が高く、多くの学校で自主性をもって生活を送る環境にあることが想像される。一方で、「挑戦する」のように、「決められた範囲ではない、もしくは行動の結果が見通せない状況」の中で行動する主体性については、それが発揮される環境にあるかどうか、検討が必要である。「できたこと」等の結果に対してだけでなく、「挑戦したこと」そのものへの態度やプロセスに対して「ほめる」等他者からの肯定的な反応が、児童生徒の挑戦する姿勢を支えることが考えられる。